

育児情報番組：「わが子がかわいく思えない」を見て

TV 番組：「すくすく子育て：わが子がかわいく思えない～親子にもある？ 相性のよしあし～」を見た。

最近のママたちの 8 割が「わが子がかわいく思えないことがある」との調査結果とか。

「生んだわが子がかわいく思わない親はいない」という呪縛（風潮）のプレッシャーからのストレスで、ママたちは、時に「わが子がかわいく思えない」自分を責めて悩み、風潮故に周りに相談もできずにいるとか。

そこで、「親子の相性」もあるのではないかという、子どもとママの「親子の距離感」や「関係性」の観点を導入することで、「子どもとの関係を客観的に見てしっかりと向き合い、相性を良くするチャンスを探っていくことが大切」と、ママたちの体験談を元に構成された内容であった。

「子育ては親育ちの過程」でもあり、（育児を含めた）教育活動とは「あえて比べず、生きようとする生命の互いに助け合いながら、生きるとはどういうことを問い続ける活動」であり、何も子育てだけでなく、「人間関係→コミュニケーション→双方向性関係→相互交渉」と考えている自分だけに、さもありなんと思った。

「親子の距離感や関係性」について、30 数年前に民放の「3 才児の世界」のために、1 ヶ月近く我が家の日常生活の TV 取材を受けた体験を思い出した。

番組ディレクターに「子どもさんとの会話の様子は、親子というより友達関係のようだった。」と取材終了後に云われたことがある。

また、番組監修者の専門家の「適切な距離を置いた親子関係。」との評も後で耳に入った。

今になりカッコ良くいえば、「わが子であっても親の所有物でない。親はその子どもなりの成長を成人するまで支えるだけ」と理解していたというになるが、当時、子育て素人の自分が、今ほど理屈っぽく意識していたはずがない。

それより、何のことはない、先々子どもから何かの折に、「あの時、親にあゝ云われたからだ！」と、親としての責任を問われたくないために、「お互い、個性ある人間じゃないか。お前はお前の人生を歩め！」という「いい逃れ」を何となく思っていただけかもしれない。

今も学生たちに、「知識はあまり教えないよ！各自の考えるヒントを話すだけ！」と前置きして授業しているところからを見ると、自分の子どもたち（学生たち）と係わる時の意識は、今になっても、どうもそう変わっていないよう、m(_ _)m